

調剤業務改善を目指し調剤監査システム導入後の取り組み

～調剤監査システムをより使いやすく、精度の高いシステムにする為に～

株式会社 ユタカファーマシー

布施英紀 清水一郎 中村和弘 横関亮

【背景/目的】昨年より、当社において第40回日本薬剤師学会大会での報告のとおり、「患者さんが安心して服薬出来る為」「薬剤師が安全に調剤出来る為」全店舗において調剤監査システムを導入してきた。導入にあたり、ブレインシデント（いわゆるヒヤリ・ハット）の発生事例件数の減少と別物調剤など患者さんに健康被害を及ぼす可能性のある調剤過誤の撲滅は報告の通りであるが、導入にあたり、現場で幾つかの問題点が発生した。現場での問題点を導入メーカーである（株）ユヤマと共有し、より現場で使いやすく、今までの導入・運用時の欠点ともいえる事項が改善されたので今回報告する。

【方法】 店舗薬剤師に調剤監査システムの要望・改良事項の聞き取り、吸い上げを実施。

吸い上げた事項について（株）ユタカファーマシー本社と（株）ユヤマで協議実施。

【結果】 要望事項を取り入れた調剤監査システムを開発・導入する事により

レセコン入力終了してから調剤監査システムを使用し調剤を実施する運用から、処方せん受付からすぐに調剤監査システムを使える運用に変更した事により調剤にかかる所要時間が削減された。

レセコン入力データを基に処方せん調剤を実施していた運用から、調剤監査システムと処方せん入力データを監査時に照合する運用に変更した事により、入力ミスが起因で起こる調剤過誤の可能性がなくなった。

ブレインシデント（いわゆるヒヤリハット）発生時に当社所定の書式に自己で記載という形からデータ上で吸い上げる事が可能になった事により、薬剤師個々のブレインシデント発生頻度・時間・内容が客観的データとして取り入れられ今後の対策として非常に有用なデータとなった。

【考察】 昨年、導入した調剤監査システムの問題点を現場の薬剤師の声を中心に改良した事により、より正確性が高く・時間的ロスがない調剤監査システムになった事は大変有意義であった。

今後も当社としましては、調剤監査システムの全店運用はもちろん、現場の薬剤師の声を常に反映し、更なる精度の高い調剤監査システムへの運用を推進していく。